

ちっち保護者会

千代田せいが保育園

今年のちっち組は・・・

4人の仲間達で、新しい生活を始めます。5月に満1歳になる子、10月に1歳になる子まで。

保育園が初めて。これまでの生活と保育園生活の違いは？

乳児でも1歳児クラスと連動した保育で、月齢差が負担にならないように。

園と家庭の人的環境

保育者



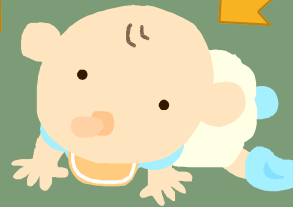
遊びと生活

子どもだけが
両方の
環境を経験

保護者



園の人的な環境



家庭の人的な環境

子どもたち



アロペアレンティング

人類は、それぞれの家庭だけで子育てをしてこなかった。

村中の人々が子育てにかかわってきた。

だからこそ、保育園も家庭であり、社会的親でもある。

見守る保育の発達過程

- 指針の「発達過程」を実践的な切り口で理解できるのがMIMA APPROACHである
- 0 1歳～2歳～3 4 5歳の発達ステージ



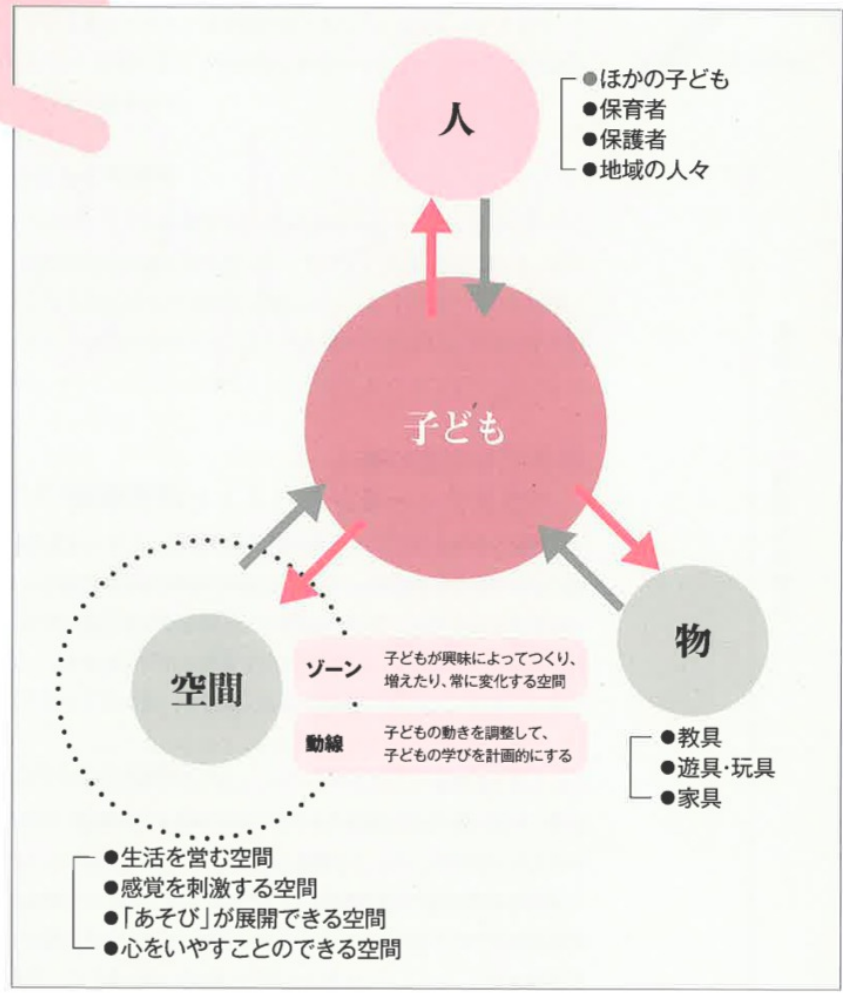
乳児期といわれる生後2週間目から満2歳くらいまでは、子どものすべての要求は身边的人々によって、つまり大人によって満たされます。身辺生活時代といわれる時期です。とくに自分でできない0歳児クラスは、基本的にはいてねいに大人と関わる必要があります。1歳児になると歩行が可能になり、自分から好きなどころに行けるようになります。また、語彙数も満2歳で約300語に達します。すると自我が芽生え、自分でいろいろなことをやりたくになります。しかも、その自我の芽生えは、0、1歳児の時期にていねいに関わるほど強くなります。この自我は、これからの育ちにとっても大切なものです。そこで、1歳児クラスでは、まだ自分ではできないからといって何でもやってあげるのではなく、その自我の芽生えを大切にしような保育を心がけます。しかし、このころの育ちにはかなり個人差がありますので、個々での対応が重要になります。そこで、0・1歳児クラスの異年齢の中で、子どもを見ていく必要があります。

幼児前期といわれるのは、約3歳児までです。食事作法、着衣などの基本的な生活習慣を身につけ、会話が著しく発達し、集団遊びへの芽生えが出現します。また、自分でできるようになった生活習慣のおかげで、自分に自信が持てるようになり、さらに自分を意識するようになった結果として自己主張が表れます。そして、第1反抗期が現れます。それと同時に、集団の楽しさ、集団のルールから我慢する力などを知りはじめ、集団の中で、少しずつ自分を見つけ出していくことができます。自分は、何が好きなのか、何がしたいのか、何ができるのか、何が得意なのかなど、自分を見つけていく、自分見つけの年齢でもあるのです。そして3歳以上で自分を表現する力をつけていき、「自主性」が生まれてくるのです。そういった意味では、とても大事な課題がこの時期、2歳児クラスにあるといえます。



保育者

保育者がデザインする環境のイメージ



0～1歳の異年齢児保育

- 個人差を大切にするためにこそ、年齢別クラスでひとまとめにしないで、個別の対応がしやすい。
- 子どもにとって、ちっちぐんぐんの両方の先生が対応するので、相性のいい先生と触れ合うことができる。

